少しの燃費改善が年間の利益確保に大きく貢献

運送業界を取り巻く厳しい環境下において、「運送原価」を把握しておくことは重要です。今回は、運送コストのなかでも人件費に次いで大きな割合を占める、「燃料費」削減のポイントについてみていきます。

車両の燃費を比較して現状を把握

車両の燃料代は、燃料消費量（L）に燃料単価（円）を掛けることで算出できますが、ここで注目すべき点は燃費（km/L）です。

下記の【表】は、2015年度の都道府県別「普通貨物車の燃費」を示しており、この表を基に、自社の各車両の燃費を比較することが利益を残すポイントになります。自社を置く都道府県の燃費を確認し、表の数値よりも良ければ、利益が残りやすい車両原価になっており、一方逆ならば、燃費の向上を考える必要があるでしょう。

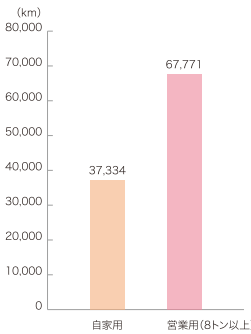
【表】都道府県別 普通貨物車※（営業用トラック）の燃費

2015年度

都道府県	燃費（km/L）	都道府県	燃費（km/L）	都道府県	燃費（km/L）	都道府県	燃費（km/L）
北海道	3.0	東京	4.1	滋賀	3.9	香川	3.5
青森	3.5	神奈川	4.2	京都	3.6	愛媛	3.4
岩手	3.4	山梨	3.8	大阪	3.9	高知	3.6
宮城	3.6	新潟	3.8	奈良	3.8	福岡	3.9
秋田	3.8	富山	3.4	和歌山	3.3	佐賀	4.0
山形	3.7	石川	3.9	兵庫	3.5	長崎	3.2
福島	3.4	長野	3.4	鳥取	3.3	熊本	3.7
茨城	3.9	福井	3.6	島根	3.8	大分	3.4
栃木	4.3	岐阜	3.1	岡山	3.6	宮崎	3.6
群馬	3.7	静岡	3.8	広島	3.4	鹿児島	3.5
埼玉	4.3	愛知	3.7	山口	3.5	沖縄	3.2
千葉	3.7	三重	3.8	徳島	3.4	全国平均	3.7

※：自動車のナンバープレートの業態及び分類番号情報を基に区分されています。
出典：国土交通省「燃料別・都道府県別・25車種別 燃料消費量」と「燃料別・都道府県別・25車種別 走行キロ」から算出。

【グラフ】トラックの年間平均走行距離



出典：国土交通省「平成16年度 自動車の検査・点検整備に関する基礎調査検討結果報告書」

継続したドライバー教育で燃費を0.1km/Lでも改善

では仮に、燃費が0.3km/L違うと、年間の燃料代がどれほど変わってくるのかみてみましょう。

営業用トラック（8トン以上）の場合、上記の【グラフ】から年間の平均走行距離は67,771kmであるため、例えば燃費が3.7km/Lであれば、年間の燃料使用量は約18,317Lとなります。しかし、燃費が3.4kmに悪化した場合は約19,933Lとなり、1台で約1,616Lも多く燃料を使用することになるのです。軽油単価を100円/Lとした場合、年間の1台あたりの費用差は161,600円、10台の車両を運用している会社では、1,616,000円もの差が発生。利益を圧迫することは明らかです。

この数値からみても、燃費を0.1km/Lでも改善することが利益確保の近道となります。燃費を良くするためには「急ブレーキ・急発進の削減」が最も効果的といわれています。しかし、ドライバーに意識させる時間が必要なため、すぐに結果に結びつかないかもしれません。根気強く、繰り返して教育を行うことが大切です。燃費の改善を意識し、利益の確保を心がけましょう。